

# 令和 2 年 度 学 校 経 営 計 画

## 1 学校教育目標

校訓「自立 共生 信愛」を指針として、自主的精神と創造的活力に満ち、思いやりの心をもつ個性豊かでたくましい人間の育成を目指す。

「自立」……社会人としてたくましく育つこと

「共生」……多様な人々の中で調和のある社会を築き上げていくこと

「信愛」……豊かな心を育て、互いに敬愛しあう人間関係を形成すること

## 2 学校の特徴

本校は、定時制単位制でかつ通信制科目も受講できる高校で、普通科（昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間）と福祉教養科（昼間Ⅰ部）を設置している。加えて、県民カレッジ新川地区センターを併設し、地域の生涯学習の拠点としての役割も担っている。

昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間の枠を越えた幅広く柔軟な受講選択が可能であり、多彩な科目の中から、生徒は各自の進路目標に合わせた時間割をつくることができる。

多様化する生徒への対応として、習熟度別講座や基礎から発展までの様々な科目の開講、少人数での授業や個別指導、個別の支援計画作成等、生徒一人一人の進路の実現に向けた支援を行っている。

福祉教養科では、介護職員初任者研修の130時間に相当する講座を平成26年度から開講した結果、昨年度まで9名の修了者があった。

部活動では、昨年度、4つの運動部が北信越大会や全国大会への出場を果たした。また、ボランティア活動や校外体験学習も重要な学習と位置づけ、特別養護老人ホームと協力した里孫活動や全校生徒で行う地域環境美化活動等の活動を通して地域に貢献し、地域で育まれる学校を目指している。

さらに県民カレッジ新川地区センターの併設を生かし、高校生が社会人と共に学ぶことにより、大人ひいては地域と関わりながら、共生の心の涵養に努めている。

## 3 学校の現状と課題

近年、不登校を経験したことのある生徒や様々な悩みや問題を抱えている生徒が増加しているため、スクールカウンセラー3名とスクールソーシャルワーカー1名が配置されている。また、平成24年度に文部科学省の特別支援教育総合推進事業の指定校として実践・研究を行って以来、ソーシャルスキルの育成及びキャリア教育の実践を進めているほか、平成30年度後期からソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上を目指した講座「サポートスタディ」を開設することとなった。関係教員を中心として、スクールソーシャルワーカーの活用方法や、サポートスタディの指導内容について模索しているところである。

進路指導では、従来の指導に加え、昨年度より、多様な生徒の就労に対応するために、就業特別支援委員会を設置し、関係機関とも連携しながら支援をより充実させる取り組みを行っている。現在は確立した支援へのシステムづくりを模索しているところである。

学力差の拡大も大きな問題で、数学と英語は習熟度別授業を実施している。また、少人数での授業や学び直しのための学校設定科目「数学入門」などをも実施しており、今後、このような試みをより広げていく必要がある。

#### 4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 (教育課程)	目標	○単位制高校の特徴を生かし、多様な生徒の実態に対応した教育課程を編成する。
		計画	○生徒の実態に即した指導ができるよう、習熟度別の講座を開設する。 ○生徒の理解を深めさせるために、科目によっては少人数制を展開する。 ○義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るために、学校設定科目を開設する。 ○個々の生徒の進路希望・興味・関心などに対応した受講登録ができるよう多様な教科・科目を開設する。 ○新学習指導要領の導入に向けて、本校の特色を生かした教育課程の編成に努める。
2	学習活動 (学習指導)  重点1	目標	○生徒の実態に即した適切な指導と授業改善により、学習意欲や講座出席率の向上を図る。
		計画	○一人一人の生活環境、学習歴、学力、適性、進路希望などを考慮した適切な受講指導を行い、生徒の実態に即した学習指導を進める。 ○生徒の出席状況や学習状況について教員間で情報を共有するとともに、保護者との連絡を図りながら、生徒の講座への出席率を高めていく。 ○指導方法や指導体制の工夫改善のために、互見授業を実施し、ICTを活用した授業を推進する。
3	学習活動 (福祉教養科)  重点2	目標	○社会福祉に興味・関心を持たせ、基礎的な知識や思考・技能を習得させ思いやりの心を育む。
		計画	○福祉の基本となる生活態度について到達目標を設定させ、自己評価を行う。 ○福祉施設における福祉体験や学習を通して、知識や思考・技能を身に付けさせ、専門性を深める。 ○介護職員初任者研修課程やボランティア活動を通して、福祉に対する関心や意欲を高める。 ○専門職の外部講師による授業や福祉出前講座、福祉教養科の行事や活動を多く取り入れ、福祉マインドを育成する。
4	学習活動 (生涯学習)	目標	○併設されている県民カレッジ新川地区センターの共学講座で、一般受講者と学ぶ機会を活用し、生涯学び続ける力を育む。 ○県民カレッジ新川地区センターとの学習機会や行事等を活用し、地域の人々に親しまれ、信頼される学校をつくる。
		計画	○共学講座で、高校生と一般受講者が同じ学習の場で互いに刺激しあい、高めあえる学習環境を整える。 ○新川キャンパスフェスティバルや共学講座など、地域での発表機会を充実させる。
5	学校生活 (生徒指導)  重点3	目標	○基本的な生活習慣を培うとともに、互いに敬愛し合う人間関係を構築し、全人的な人間形成を目指す。
		計画	○基本的な生活習慣として「あいさつの推進」「場に応じた言葉遣い」「入退室マナー」「身だしなみ基準の遵守」を重点項目として掲げ、ルールやマナーを学び、遵守する力を育成する。 ○生徒理解に努める。面接週間を設定し、ゆとりある面接ができる体制を充実させる。 ○不登校や長期欠席の生徒に対して、保護者と連携を取りながら、適切に家庭訪問を行い、生徒の理解・支援に努める。 ○講話等を通して携帯電話・スマートフォンの安全な利用、交通安全、薬物乱用防止への意識を高める。 ○全校集会等を通して、命の大切さなどの気運を醸成する。

項目		目標・方針及び計画	
6	学校生活 (保健指導) <b>重点4</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の自己健康管理能力を育むとともに、健康で快適な学校生活のための学習環境の整備に努める。</li> <li>○悩みや不安を抱えている生徒、特別な支援を要する生徒への共通理解を図り、生徒の社会的自立や自己実現に向けた指導や支援を目指す。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康で充実した学校生活を送らせるために、定期健康診断や生活習慣チェックを実施し、必要に応じて健康相談を行う。「治療カード」「ほけんだより」等による啓蒙をする。</li> <li>○地域環境美化活動や毎日の清掃を全員で行い、環境美化の意識付けを図るとともに、ゴミの分別と減量を進める。</li> <li>○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談やケース会議等をもとに生徒への共通理解を深め、家庭や県の相談機関・外部の医療機関との連携を図り、適切な支援を行う。</li> </ul>
7	進路支援 (進路指導)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が満足できる進学・就職を支援する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が個々の適性に応じた目標に向かって、積極的に取り組み、進路実現できるよう支援する。</li> <li>○「総合的な探究の時間」(進路研究)を生徒の実態に合わせて弾力的に運用することにより、社会人基礎力及び基礎学力の定着・伸長に努める。</li> <li>○キャリア教育の一環として、「進路のてびき」を利用し、「ステップアップカリキュラム」、「キャリア支援講座」等を通し、1年次から生徒の進路目標を系統的に育成する。</li> </ul>
8	特別活動 (学校行事) <b>重点5</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動、ボランティア活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動のさらなる活性化を図り、生徒一人一人が主体的・意欲的に関わられるようにする。</li> <li>○生徒の実態や要望に応じた部活動の運営をするとともに、自主的・自発的な活動を促す。文化部が発表する機会を提供する。</li> <li>○ボランティア活動等の情報を適切に提供し、積極的な参加を促す。また、事前・事後指導を徹底する。</li> </ul>
9	特別活動 (図書指導)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書委員会活動を活発化し、読書に対する興味・関心を高める。</li> <li>○図書館の利用指導を通し、健全な読書活動の推進を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昼休み・放課後のカウンター当番を通して、図書委員としての自覚を高め、図書委員会の活発な活動を推進する。</li> <li>○生徒の読書傾向やニーズの把握に努める。</li> <li>○図書だより・図書館報の発行、生徒図書選定、教養講座等を行う。</li> </ul>
10	その他 (PTA活動)	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と家庭との緊密な連携のもと、PTA活動の活性化を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページにPTA活動の様子などを更新・掲載する。</li> <li>○ホームページや学校教育安全メール等を利用して会員への連絡を徹底する。</li> <li>○PTAだよりを充実させる。</li> <li>○保護者の来校機会を設定する。</li> <li>○積極的なPTA活動への参加を呼びかける。</li> </ul>

(様式3)

## 5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和2年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 (学習指導)
重点課題	生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。</li><li>・様々な理由から、転入学生や編入学生が多くいる。</li><li>・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。</li><li>・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。</li><li>・互見授業を実施しているが、生徒へのフィードバックに課題が残る。</li></ul>
達成目標	講座出席率と単位修得率 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。</li><li>・HRや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。</li><li>・生徒、教員 (担任・授業担当者)、保護者との連携をとっていく。</li><li>・授業内容の見える化やICTの活用を通して、生徒の学習意欲の向上に努める。</li><li>・教科内や教科を横断して学習活動や指導方法の工夫を図り、生徒が主体的に参加できるように、わかる授業の実践に努める。</li></ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった。)

令和2年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学習活動 (福祉教養科)
重点課題	社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・1年次生から実習・体験、専門家による講義等を計画的に取り入れ、福祉に対する興味・関心を高めながら、思いやりの心を育成していく必要がある。</li><li>・介護職員初任者研修の受講生は3名(対象生徒5名中)である。</li><li>・福祉系職種に求められる資質と介護技術の基礎・基本を身に付ける指導をし、昨年度の医療・福祉系の進路は1名(1名中)であった。</li><li>・昨年度の「生活態度・福祉についての自己評価表」による“福祉”の達成度は88.9%であった。</li></ul>
達成目標	①「生活態度・福祉についての自己評価表」における“福祉”と“学校生活”項目が向上した生徒の割合 (現状維持を含める) ②里孫活動への加入継続と参加の割合 ①80%以上 ②全員加入と参加率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・「生活態度・福祉についての自己評価表」を年2回実施する。各自の自己目標を意識させ行動を促し、今年度の目標に到達できるよう働きかける。</li><li>・個々の福祉マインドの育成を図るために、担任・教科間での情報交換を密に行う。また生徒の学習や活動状況の把握と面接等を適宜実施する。</li><li>・様々な体験や福祉体験学習等を通して、思いやりの心や自主性・協調性を学ばせるとともに、ボランティア活動 (里孫活動は卒業年次までの継続) を外部機関と連携を取りながら推進する。</li><li>・個別および年次生の学習補充の他、生活や進路指導、福祉教養科の活動や生徒の交流を積極的に図る。</li><li>・1年次生から介護職員初任者研修受講に向け、面談や保護者会を通じて資格取得を働きかける。</li><li>・福祉教養科、介護職員初任者研修について、中学校や外部に対するPRを行う。</li></ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった。)

重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的にあいさつを交わす学校生活（基本的な生活習慣）</li> <li>・ルールやマナーを意識した学校生活（基本的な生活習慣）</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が確立されておらず、普段の生活で「はじめ」を欠く生徒がいる。また、目標に向かい、主体的に行動できない生徒が多く、安易な方向に流される傾向がある。</li> </ul>
達成目標	友人や教職員と毎日気持ちよく「あいさつ」を交わす生徒 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活委員会の活動を活性化させ、「あいさつの推進」について、生徒自らが考え全校生徒に働きかけさせる。</li> <li>・教職員からの積極的な「あいさつ（おはよう、こんにちは、こんばんは）」を推進する。（登校時、教室入室時、休み時間、下校時等）</li> <li>・授業の始まりと終わりの「あいさつ（お願いします、ありがとうございました等）」をしっかりと行わせる。</li> <li>・職員室への「入退室心得」を活用し、場と状況に応じた言葉遣いやマナーを指導し意識させる。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	学校生活（保健指導）
重点課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>①睡眠を中心とした生活習慣の見直しと改善</li> <li>②特別支援を行うことによって得られた生徒の変容の分析と情報の共有</li> </ol>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣チェック調査においてアテネ不眠尺度※を用いた結果、「不眠症の疑いあり」となった生徒が2018年度6月(38.1%)、2019度7月(49.5%)、1月(47.6%)であった。保健室には睡眠不足から心身の不調を訴えて来室する生徒が少なからずいる。調査結果からも睡眠習慣の乱れがあると思われる生徒が半数近くいる。 ※WHO主導で作成された世界共通の不眠症判定法</li> <li>・特別支援教育は、対象生徒に対して、分掌・年次・通級担当者・スクールカウンセラー等が様々な支援を行っている。支援を行っているが、生徒の変容が分かりづらかった。また、全職員で年3回の研修会を行っているが、支援内容や支援の進捗状況が具体的内容で共有されていない。</li> </ul>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「不眠症の疑いあり」の生徒の割合を35%以下。</li> <li>②支援内容や支援の進捗状況を共有しながら「個別の指導計画」の項目の95%以上で生徒の変容（「できるようになったこと」の記入）がみられる。</li> </ol>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に生活習慣チェックを実施し睡眠習慣を含む問題点への気づきを促す。ホームルームを利用し睡眠の重要性及び睡眠習慣を含む生活習慣改善に向けての健康教育を行う。アテネ不眠尺度が10点以上の生徒に対しては個別指導を行う。講演会、キャンパスフェスティバル、学校保健委員会等の活動を通じて全校生徒（及び保護者）に対し、睡眠への関心を高めさせ、生徒一人一人が改善策を実行出来るようにする。</li> <li>・「個別の指導計画」を作成する担当者（年次・分掌・教科）を明確にする。関係者によるケース会議を適切に実施し、支援体制の構築や連携を図る中において、支援担当者によって評価（成果と課題）する。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	特別活動（委員会活動）
重点課題	委員会活動の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の委員会には、文化委員会、広報委員会、スポーツ委員会、生活委員会、保健厚生委員会、図書委員会があるが、各委員会の活動が余り活発ではない。</li> <li>・委員会の開催については、前期1回と後期1回は特活部が設定した日時に開催されている。</li> <li>・委員会の活性化を目指し、特活部が設定した日時以外にも委員会開催の依頼はしているが、なかなか実施されていない。</li> <li>・生徒会4役（会長、副会長、書記、会計）以外、全校生徒は必ずいずれかの委員会に所属している。</li> </ul>
達成目標	委員会への出席率50%以上（6委員会の平均とする） 各委員会に所属している生徒の半数以上の参加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、特活部指定の委員会開催日を設け、参加人数や内容を今までと同様に毎回提出してもらう。（委員会によっては、指定日以外での開催を増やしてもよいとする）</li> <li>・複数の委員会のコラボレーション活動も検討する。</li> <li>・委員会活動の様子を発表する機会を設ける。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）